

資料2

函館国際水産・海洋都市構想について

「海における次世代モビリティに関する産学官協議会」

令和2年12月17日(木)

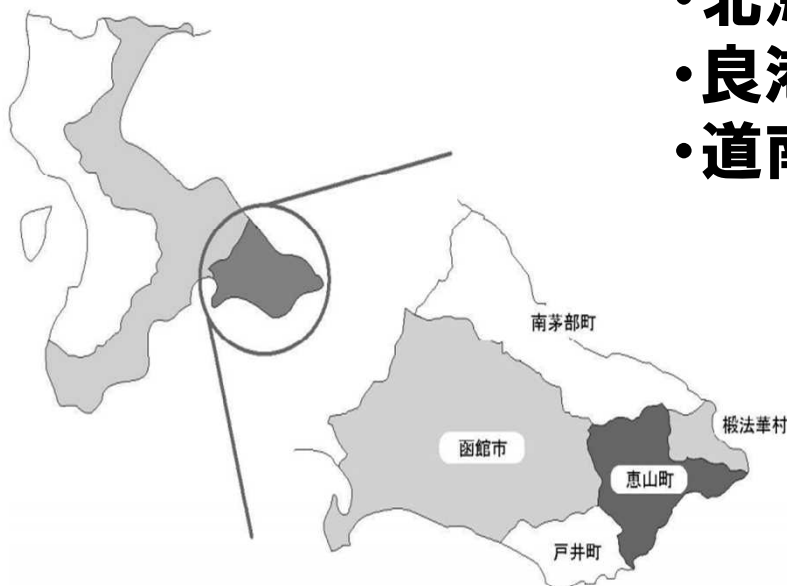
函館市企画部 国際水産・海洋都市推進室



函館市について

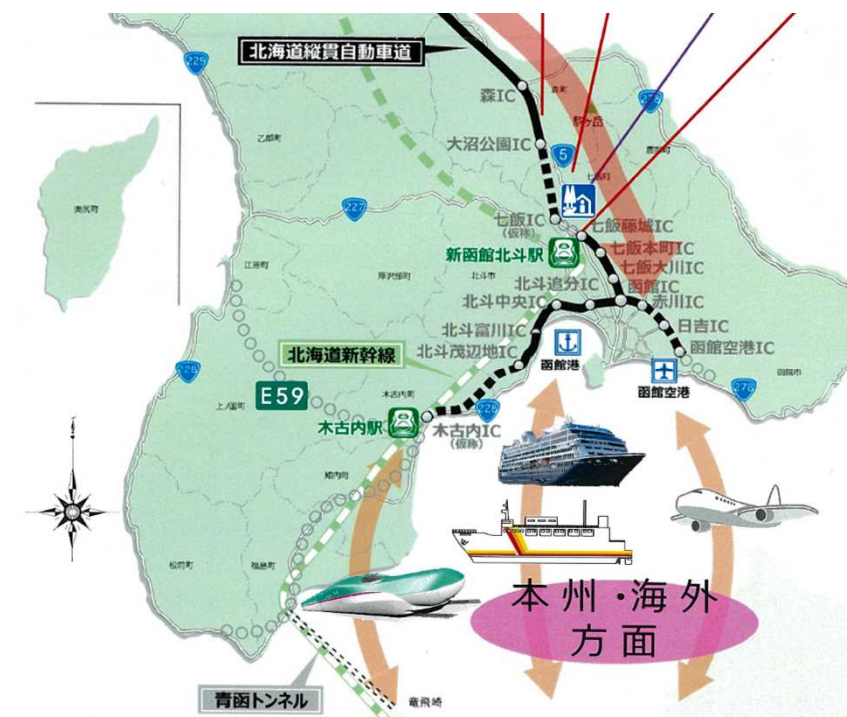
人口:25万2647人（令和2年9月末日）

位置, 地勢



- 北海道と本州を結ぶ交通の要衝
- 良港に恵まれた港町
- 道南地域の中心都市

- 人口が減少している。
- 市全域が過疎地域に指定



3つの優位性

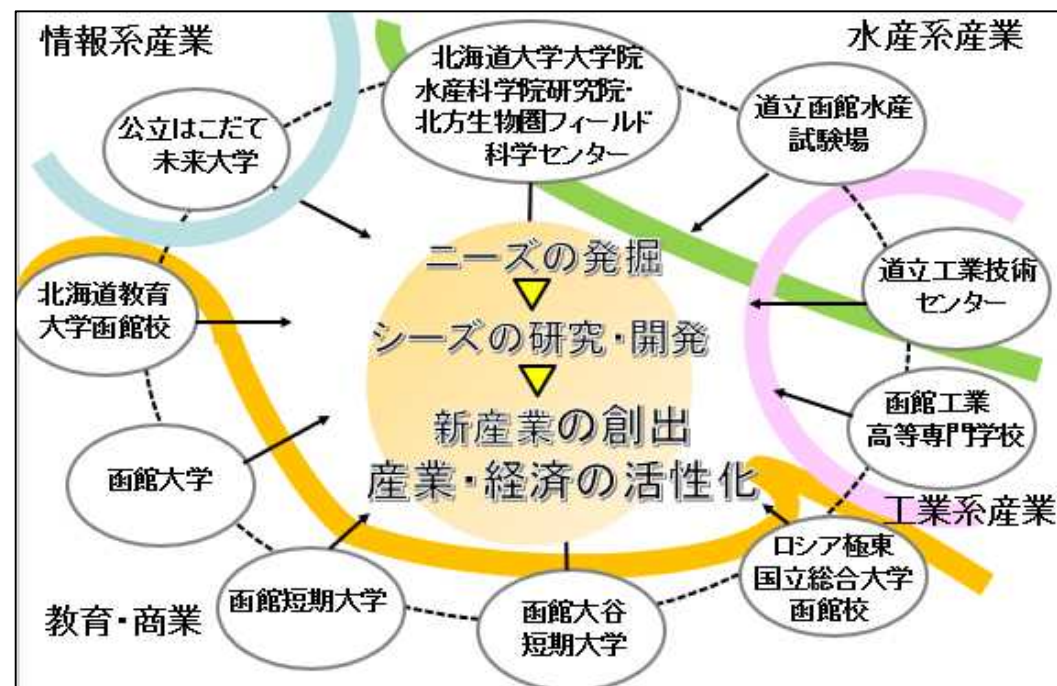
優位性1

暖流・寒流が流れ込み 優良な漁場を形成



優位性2

大学をはじめとする学術研究機関が
数多く立地



優位性3

造船

水産加工

機械部品

マリンIT

水産・海洋に関する様々な関連産業が集積



函館国際水産・海洋都市構想

平成15年3月に地域の産学官により策定

地域の優位性を生かしたまちづくり構想

主要施策

- 1 水産・海洋に関する学術研究機関の集積
- 2 地域と学術研究機関の連携
- 3 観光と学術研究の融合
- 4 水産・海洋と市民生活の調和

国際的な水産・海洋に関する**学術研究拠点都市**を形成

研究成果・革新技術

波及効果

新産業・雇用の創出, 産業・経済の活性化

平成21年4月

構想の推進母体となる

「一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構」設立



函館市臨海研究所

平成19年4月
供用開始

函館の歴史的建造物である旧函館西警察署庁舎を水産・海洋関連産業の技術の高度化や水産振興に貢献する研究施設「臨海研究所」として再整備。





函館国際水産・海洋総合研究センター

平成26年6月開所



大型実験水槽



実験水槽室



大会議室



おしよろ丸



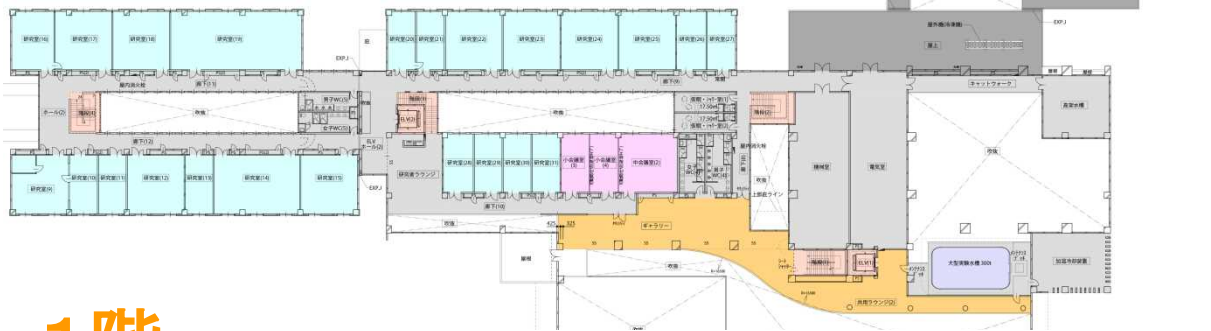
建設場所: 函館市弁天町
(旧函館ドック跡地)
敷地面積: 約58,944.70㎡
延床面積: 約8,900㎡



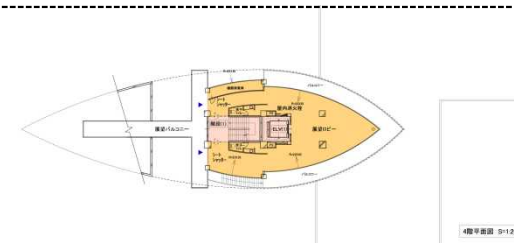
平面図

2階

研究室, 研究者ラウンジ, 機械室, 電気室



建設場所: 函館市弁天町
(旧函館ドック跡地)
敷地面積: 約58,944.70㎡
延床面積: 約8,900㎡



1階

研究室, 共同実験室, 実験水槽室,
大型実験水槽, 実習室, 会議室,
ラウンジ・ギャラリー・展示スペース, 事務室



4階

機器保管庫, 展望バルコニー

大型実験水槽





入居機関の紹介

13の産学官の学術研究機関や企業などが水産・海洋分野の研究開発を行うため入居している。

産

(株)グリーン&ライフ・イノベーション（函館）
共和コンクリート工業(株) 海藻技術研究所（札幌）
(株)エコニクス（札幌）
(株)ソニック（東京）
(株)コスモテクノロジー（東京）
(株)古清商店（函館）
(株)北海道マリンイノベーション

学

北海道大学大学院水産科学研究院
北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター
北海道大学北極域研究センター
公立はこだて未来大学
函館工業高等専門学校

官

北海道立総合研究機構 函館水産試験場



令和元年(2019年)の主な事業内容

◆函館国際水産・海洋都市構想に基づく主な取り組み

○ 水産・海洋に関する学術研究機関の集積に関わる事業

- ・海への招待状forGirls
- ・海洋環境モニター報告会
※JAMSTECとの三者協定連携事業
- ・各種シンポジウムの開催

○ 地域と学術研究機関の連携に関わる事業

- ・イカ資源評価と予測に関する講演会
- ・共同研究・受託研究事業

○ 観光と学術研究機関の融合に関わる事業

- ・イカマイスター養成事業(講習会, 認定試験)

○ 水産・海洋と市民生活の調和に関わる事業

- ・函館マリンフェスティバル2019
- ・学習旅行, 研修等の受け入れ





函館市の水産業について



定置網漁業

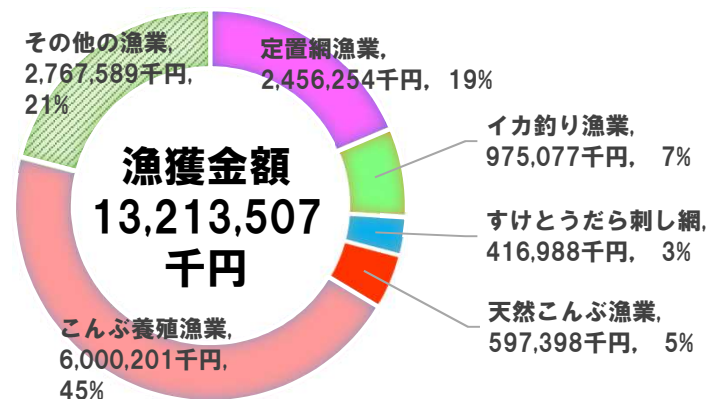


コンブ養殖漁業



天然コンブ漁業

令和元年 函館市の漁獲金額



(函館市農林水産部水産課調べ)



魚種別生産高

魚種名	平成20年		平成30年		対比	
	数量 (トン)	金額 (千円)	数量 (トン)	金額 (千円)	数量 (トン)	金額 (千円)
さけ	1,704	799,561	943	672,759	0.55	0.84
すけとうだら	4,591	659,289	3,703	463,563	0.81	0.70
ほっけ	3,318	397,202	2,079	246,231	0.63	0.62
さば	1,760	127,648	2,448	92,564	1.39	0.73
ぶり	274	122,511	4,746	1,156,659	17.32	9.44
するめいか	40,570	7,220,189	5,592	3,399,491	0.14	0.47
こんぶ	5,208	7,899,324	3,722	6,567,666	0.71	0.83
うに類	93	708,752	102	874,446	1.10	1.23
全体の合計	71,452	21,121,348	30,075	16,236,718	0.42	0.77

※魚種名は主なものの抜粋

※「全体の合計」は、魚種全体の合計

北海道水産現勢より



最近の新聞の見出しから

ブリ漁獲量がスルメイカを上回る
渡島管内で初 (2020.7.31 北海道新聞)

道沿岸水揚げ様変わり
サンマ・イカ不漁 ブリ・シイラ続々
水温上昇一因？ 漁業者ら困惑 (2020.11.4北海道新聞)

イカもサケもホッケもサンマも不漁
函館市場取扱量 最小ペース
コロナで需要減 単価も下落 (2020.11.13北海道新聞)

サンマ漁 最低更新
11月末時点 道内は前年比半減 (2020.12.11北海道新聞)



漁業就業者

(単位: 人)

	平成15年			平成25年		
	合 計	15 - 64 歳	65 歳 以上	合 計	15 - 64 歳	65 歳 以上
北海道	29,890 (100%)	21,865 (73.2%)	8,025 (26.8%)	26,186 (100%)	20,306 (77.5%)	5,880 (22.5%)
対H15年				▲3,704 ▲12.4%	▲1,559 ▲7.1%	▲2,145 ▲26.7%
函館市	4,099 (100%)	2,818 (68.7%)	1,281 (31.3%)	2,959 (100%)	1,892 (63.9%)	1,067 (36.1%)
対H15年				▲1,140 ▲27.8%	▲926 ▲32.9%	▲214 ▲16.7%

資料: 漁業センサス



函館市の施策

■ 魚種転換支援事業補助金

- ・ イカ加工業者の「魚種転換」を図るため、新商品製造のための設備等の導入支援

■ 魚類等養殖事業推進

- ・ 魚類等養殖推進協議会を設置し、サーモンやウニ、アワビなどの養殖事業の調査研究

■ 小型イカ釣り漁業出漁支援補助金

- ・ 出漁を促進し、流通量を確保するため漁灯にかかる燃料費の助成

■ 水産海洋研究連携推進事業

- ・ 天然コンブ繁茂状況の改善に向けた研究
- ・ コンブ養殖技術の検証や藻場回復に向けた研究

■ コンブ漁業作業省力化研究事業

- ・ コンブ漁業の労働環境改善や生産性の向上ため作業省力化の検討

■ 資源増大・有効利用対策事業

- ・ ウニ・アワビ・ナマコの種苗放流, ウニ深浅移植

■ コンブ廃棄物適正処理促進事業

- ・ 養殖コンブの根株処理に係る漁業者の負担軽減

■ コンブブランド化推進事業

- ・ 「函館真昆布」のロゴマーク作成, 出荷用梱包資材への印刷



まとめ

- 少子高齢化と漁業就業者の減少
- 温暖化などによる魚種交代
- 市のシンボルであるスルメイカの漁獲激減
- 漁獲生産高の減少 などにより

漁業のみならず、観光業や水産加工業などに大きな影響

持続可能な漁業，安定した漁業経営の実現
⇒つくり育てる漁業の推進，生産性向上など

マリンICTや次世代モビリティの推進が
水産業を取り巻く課題解決の一助になることを期待